様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２９ 年　 ６ 月 １３ 日現在

機関番号：１２６１３
研究種目：若手研究(B)
研究期間：2014～2016
課題番号：２６７７０１４３

研究課題名（和文）アクセント体系と形態統語論における改新に基づいた九州諸方言の系統関係の解明

研究課題名（英文）A phylogenetic study of the Kyushu dialects on the basis of tonal and morpho-syntactic innovations

研究代表者
五十嵐　陽介（Igarashi, Yosuke）

一橋大学・大学院社会学研究科・准教授

研究者番号：００５４９００８

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　1,800,000円

研究成果の概要（和文）：大分県、佐賀県、熊本県、および宮古諸島の諸方言の語アクセントのデータをフィールドワークを通じて収集した。さらに公刊されている日本語および琉球語のアクセントのデータをデータベース化し、諸方言におけるアクセント型の対応を検討した。当該のデータを分析した結果、佐賀方言と琉球語諸方言との間に、従来報告されていなかった対応のあることを発見した。もしこの発見が学界に承認されるのであれば、日本語・琉球語の系統関係に関して従来提出されてきたすべての学説が抜本的に改定されることになる。また、作成したデータベースに基づいて、金田一春彦氏の提案する「アクセント類別語彙」の改定案を発表した。

研究成果の概要（英文）：Linguistic data in the Japanese and Ryukyuan dialects, were collected through fieldwork in Oita, Saga, and Kumamoto prefectures, as well as in Miyako Islands. In addition, published data on the accent systems of the Japanese and Ryukyuan dialects were compiled into a database. The analysis of this database enabled us to find those sound correspondences between the Saga and Ryukyuan dialects that had not been reported thus far. The findings, if they are approved, point to the necessity of revising all the exiting theories on the phylogeny of Japanese and Ryukyuan. Also, a new list of cognate words in Japanese and Ryukyuan was proposed for the purpose of historical comparative linguistics.

研究分野：言語学

キーワード：アクセント　類別語彙　歴史言語学　系統論　九州方言　琉球語　音韻論　音声学

１．研究開始当初の背景

日本語諸方言の通時的変化を明らかにするための枠組みは大別してふたつある。ひとつは方言の地理的分布に基づいて変化の過程を推定する言語地理学であり、もうひとつは諸方言の比較に基づいて、それらの祖語を明らかにし、諸方言の系統関係を明らかにする比較言語学である。日本語諸方言に関しては専ら前者の枠組みが用いられてきた（徳川1993）。一方、日本語諸方言がその祖語から分岐して現在の姿に至る過程を解明する比較言語学は、日本語の通時研究にとって重要であるにも関わらず、これまで十分に取り組まれてこなかった。

２．研究の目的

本研究は、未解決かつ重要ないくつかの系統論上問題を有する九州諸方言を分析対象とする。その目的は、アクセント体系および形態統語論における改新を、分岐学的手法に基づいて分析することによって、九州諸方言の系統関係を解明することにある。

３．研究の方法

日本語諸方言の系統論の発展を阻害してきた最も大きな要因は方法論の欠如にある。共通の改新に基づき系統関係を探求する分岐学は、日本語諸方言の系統の解明に有用な手法を提供するが、これまでの日本語研究では本格的に用いられることがなかった。

分岐系統学の観点を導入した比較言語学では、諸方言が祖語から受け継いだ特徴すなわち古形の保持（retention）と、変化の過程で新たに獲得した特徴すなわち改新（innovation）とが区別され、改新を共有する諸方言が系統群として認められる。言語変化の過程は系統樹の形で表現される。本研究では、分岐学的手法に基づいて、諸方言を分析する。

４．研究成果

（1）佐賀方言におけるＢ類とＣ類の区別の保持

祖語において、同一のアクセント型を有する語のグループをアクセント類と呼ぶ。琉球語諸方言には、Ｂ類とＣ類とそれぞれ呼ばれるアクセント類が存在する。Ｂ類とＣ類には例えば以下の語がそれぞれ属する。

Ｂ類：肩・種・汗・雨
Ｃ類：息・舟・桶・鍋

Ｂ類とＣ類の区別は琉球語諸方言にしか認められず、日本語諸方言（日本本土の諸方言）には認められないというのが定説であった。

一方で、Ｂ類とＣ類の区別は、琉球語と日本語の共通祖語、すなわち日琉祖語に遡る特徴であるとみなされる。したがって、Ｂ類とＣ類の合流という改新を、すべての日本語諸方言が共有していることになる。この合流は、日本語（本土）諸方言の祖語、すなわち日本祖語の段階で生じたとみなすことができる。言い換えれば、Ｂ類とＣ類の合流は、「琉球語派」と対立する「日本語派」という系統群を定義する改新のひとつとみなすことができる。

しかしながら我々の調査（五十嵐・平子2016）によると、Ｂ類とＣ類の区別の痕跡が、本土方言のひとつ佐賀県旧杵島郡（以降、佐賀方言）に認められる。この事実は、Ｂ類とＣ類の合流を経験していない日本語（本土）方言が存在していることを示唆する。すべての本土方言を含み、かつ本土方言のみから構成される「日本語派」なる系統群がもし存在しているのならば、Ｂ類とＣ類の合流は、日本祖語の段階で生じたのではなく、日本祖語が崩壊後に生じたということになる。

アクセントを体系的に知ることのできる最古の文献資料は、平安時代後期の日本語中央方言の資料であるが、この文献によるとＢ類とＣ類の区別は、平安時代後期の日本語中央方言においてすでに失われている。この事実と、現代佐賀方言にＢ類とＣ類の区別の痕跡が認められる事実とを考慮すると、佐賀方言と中央方言との分岐年代は、平安時代後期以前と推定することが可能となる。

アクセント体系における改新に基づいて、諸方言の系統を解明しようとする研究では、平安時代後期以前に中央方言と分岐した証拠の見つかる方言は、琉球語諸方言のみであるとされてきた。今回の我々の調査結果からは、平安時代後期以前には、琉球語諸方言だけでなく佐賀方言も、中央方言から分岐していたことが示唆される。

（2）「琉球語派」と対立する「日本語派」なる系統群を否定し、「九州・琉球語派」を提唱する

日本語と琉球語に関する比較言語学的研究によると、日本語（日本本土の日本語）と琉球語（琉球列島の言語）は日琉祖語に遡る姉妹言語であり、両者の分岐年代は、上代日本語の話されていた奈良時代より前であると推定されるという。またこれまでに提案された系統樹によると、（議論の余地のある八丈方言を除くと）日琉語族は「琉球語派」と「日本語派」という２大系統群から構成されるという。

しかしながら、すべての現代日本語諸方言を子孫に持ち、かつ日本語諸方言のみからなる「日本語派」なる系統群は、果たして本当に存在するのだろうか。もしすべての日本語諸方言が共有するとみなされてきた言語改新を、一部の日本語諸方言が共有しておらず、もし琉球語諸方言のみが共有するとみなされてきた言語改新を、日本語諸方言の一部が共有しているのならば、「日本語派」なる系統群は存在しないことになる。

五十嵐（2016）は、1）すべての日本語諸方言が共有するとみなされてきた言語改新を九州諸方言の一部が共有していない事実を報告するとともに、2）琉球語諸方言のみが共有するとみなされてきた言語改新を九州諸方言の一部が共有している事実を報告し、3）この事実に基づいて、（日本語の）九州方言と琉球語諸方言とからなる「九州・琉球語派」なる系統群を提案し、したがって 4）琉球語を除外し、かつすべての現代日本語諸方言を子孫とする「日本語派」なる系統群は成立しないと主張する。

琉球語と日本語の分岐年代に関する定説は以下の通りである（服部 1979; Pellard 2015）。

- 琉球語諸方言は、すべての現代日本語諸方言が失った、日琉祖語における特徴を保持している。
- 琉球語諸方言が保持する日琉祖語の特徴の一部は、上代日本語（8 世紀）の時代にすでに失われた。
- したがって、琉球祖語の分岐年代は奈良時代より前（7 世紀以前）である。

琉球語派と日本語派は、以下のように定義されてきた。

- 琉球語諸方言に観察され、日本語諸方言に観察されない言語改新がある。
- 日本語諸方言に観察され、琉球語諸方言に観察されない言語改新がある。
- したがって、琉球語諸方言のみを子孫とする「琉球語派」と、日本語諸方言のみを子孫とする「日本語派」が定義される。

しかしながら、五十嵐（2016）の調査によると、事実は通説とは異なっている。すなわち、

- 琉球語諸方言に観察され、日本語諸方言に観察されないとされてきた言語改新の一部は、日本語九州方言の一部に観察される。
- 日本語諸方言に観察され、琉球語諸方言に観察されないとされてきた言語改新の一部は、日本語九州方言の一部に観察されない。

九州方言に観察されないが、その他の日本語諸方言に観察される言語改新がある事実は、九州方言を除いた日本語諸方言からなる系統群の存在を意味する。琉球語諸方言と九州方言が特定の言語改新を共有している事実は、琉球語と九州方言からなる系統群の存在を示唆する。以上から五十嵐（2016）は以下を提案する。

- すべての現代日本語諸方言を子孫に持つ「日本語派」なる系統群は定義することができない。
- 琉球語諸方言と九州方言からなる系統群（「九州・琉球語派」）と、（少なくとも九州方言を除く）日本語諸方言からなる系統群（「中央日本語派」）を定義する。

（３）アクセント型の対応に基づいて日琉祖語を再建するための語彙リスト「日琉語類別語彙」

祖語において、同一のアクセント型を有する語のグループをアクセント類と呼ぶとすると、日琉祖語の 2 拍名詞には 8 つの主要なアクセント類があることが、服部四郎氏によって明らかにされている。日琉祖語を再建するためには、それぞれのアクセント類に所属する語を明らかにする必要があるが、従来の研究ではそれが十分になされていない。

従来の語彙リスト（「類別語彙」、「系列別語彙」など）には、1)琉球語に同源語が見つからず、したがって日琉祖語に遡る可能性の低い語が含まれているという問題と、2)日琉同源語の相当数が含まれていないかという問題がある。

そこで五十嵐（2016b）、Igarashi（2016a, 2016b)は、アクセント型の対応に基づいて日琉祖語を再建する研究を発展させることを目的とした新しい語彙リスト「日琉語類別語彙」を提案した。このリストは日琉同源語約 1200 語から構成される。従来の語彙リスト（「類別語彙」、「系列別語彙」など）に記載された日琉同源語の総数は約 600 語であり、「日琉語類別語彙」はその 2 倍の規模を持つ。

引用文献

① 五十嵐陽介・平子達也（2016）「「肩・種・汗・雨」と「息・舟・桶・鍋」がアクセント型で区別される日本語本土方言―佐賀県杵島方言と琉球語の比較」第 30 回日本音声学会全国大会，2016 年 9 月 17 日：早稲田大学.

② 五十嵐陽介（2016a）「琉球語を排除した「日本語派」なる系統群は果たして成立するのか？―「九州・琉球語派」と「中央日本語派」の提唱―」国際日本文化研究センター共同研究会「日本語の起源はどのように論じられてきたか－日本言語学史の光と影」第 3 回共同研究会．2016 年 8 月 31 日：国際日本文化研究センター.

③ 五十嵐陽介（2016b）「アクセント型の対応に基づいて日琉祖語を再建するための語彙リスト「日琉語類別語彙」」日本語学会 2016 年度春季大会ワークショップ「『日本祖語について』を超えて」日本語学会 2016 年度春季大会．2016 年 5 月 15 日：学習院大学.

④ 服部四郎（1979）「日本祖語について 21-22」『言語』8(11): 97-107; 8(12): 504

-516.
⑤ Igarashi, Yosuke (2016a) A unified list of cognate words in Japanese and Ryukyuan for the purpose of historical comparative linguistics. 2016 年 7 月 3 日：東京外国語大学 AA 研.
⑥ Igarashi, Yosuke (2016b) An urgent task for research on the tone systems of Japanese and Ryukyuan: What should fieldworkers do in the next decade? Phonology Forum 2016. 2016 年 8 月 24 日：Kanazawa University Satellite Plaza.
⑦ Pellard, Thomas (2015) The linguistic archeology of the Ryukyu Island. In: Patrick Heinrich, Shinsho Miyara, Michinori Shimoji (eds.) Handbook of the Ryukyuan languages: History, structure, and use, 14-37. Berlin: DeGruyter Mouton.

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕（計７件）

[1] 五十嵐陽介（2016）「南琉球宮古語池間方言・多良間方言の韻律構造」『言語研究』150, 1-25.査読有.
[2] 五十嵐陽介（2016）「名詞の意味が関わるアクセントの合流：南琉球宮古語池間方言の事例」『音声研究』20(3), 46-65. 査読有.
[3] 平子達也、五十嵐陽介（2016）「熊本県玉名市方言のアクセントについての初期報告」『実践女子大学文学部紀要』58, 1-22. 査読無.
[4] 平子達也、五十嵐陽介（2016）「佐賀県中南部諸方言の二型アクセントについて」『実践国文学』89, 107-69. 査読無.
[5] 五十嵐陽介（2015）「南琉球宮古語多良間方言のアクセント型の記述」『比較日本文化学研究』8, 1-42. 査読無.
[6] 五十嵐陽介・松浦年男（2015）「天草諸方言のアクセント資料の提示と新しいアプローチに基づいた西南部九州諸方言の系統分析の試み」『九州大学言語学論集』35. 71-102. 査読有.
[7] 平子達也、五十嵐陽介（2014）「大分県杵築市方言の名詞アクセント資料とその歴史的考察」『京都大学言語学研究』33, 197-228. 査読有.

〔学会発表〕（計１３件）

[1] 五十嵐陽介、田村智揮、中野晃介、高橋佑希「鹿児島県種子島中種子方言のアクセント型の実現」Prosody and Grammar Festa 2017「対照言語学」プロジェクト第 1 回合同研究発表会. 2017 年 2 月 18 日:国立国語研究所（東京都立川市）.
[2] 五十嵐陽介・平子達也「「肩・種・汗・雨」と「息・舟・桶・鍋」がアクセント型で区別される日本語本土方言―佐賀県杵島方言と琉球語の比較」日本音声学会第 30 回全国大会. 2016 年 9 月 17 日：早稲田大学（東京都新宿区).
[3] 五十嵐陽介「琉球語を排除した「日本語派」なる系統群は果たして成立するのか？―「九州・琉球語派」と「中央日本語派」の提唱―」国際日本文化研究センター共同研究会「日本語の起源はどのように論じられてきたか－日本言語学史の光と影」第 3 回共同研究会. 2016 年 8 月 31 日：国際日本文化研究センター（京都府京都市）.
[4] Igarashi, Yosuke An urgent task for research on the tone systems of Japanese and Ryukyuan: What should fieldworkers do in the next decade? Phonology Forum 2016. 2016 年 8 月 24 日：Kanazawa University Satellite Plaza（石川県金沢市）.
[5] Igarashi, Yosuke A unified list of cognate words in Japanese and Ryukyuan for the purpose of historical comparative linguistics. 2016 年 7 月 3 日：東京外国語大学 AA 研（東京都府中市）.
[6] 五十嵐陽介「アクセント型の対応に基づいて日琉祖語を再建するための語彙リスト「日琉語類別語彙」」日本語学会 2016 年度春季大会ワークショップ「『日本祖語について』を超えて」日本語学会 2016 年度春季大会. 2016 年 5 月 15 日：学習院大学（東京都豊島区）.
[7] 五十嵐陽介「南琉球宮古語の三型アクセント体系－池間方言と多良間方言を中心に－」第 29 回日本音声学会全国大会. 2015 年 10 月 4 日：神戸大学（兵庫県神戸市).
[8] Igarashi, Yosuke Word tones at the sentence level in the Ikema dialect of Miyako Ryukyuan. ICPP 2015. 2015 年 9 月 26 日：慶應義塾大学（東京都港区).
[9] 松浦年男、五十嵐陽介「天草諸方言における複合語と外来語のアクセント」レキシコン・フェスタ 3, 2015 年 2 月 1 日：国立国語研究所（東京都立川市）.
[10] 五十嵐陽介「南琉球宮古語池間方言の語アクセントの中和と文レベルでの実現」日本言語学会第 149 回大会, 2014 年 11 月 16 日：愛媛大学（愛媛県松山市）.
[11] 五十嵐陽介・平子達也「佐賀県北方町周辺方言における 3 拍 5 類の対応がアクセントの歴史研究に与える示唆」日本言語学会第 149 回大会, 2014 年 11 月 15 日：愛媛大学（愛媛県松山市）.
[12] 松浦年男・五十嵐陽介「天草諸方言における複合語と外来語のアクセント」日本方言研究会第 99 回研究発表会, 2014 年 10 月 17 日:北海道大学(北海道札幌市).

[13] 松森晶子・五十嵐陽介 「多良間島アクセントの仕組みとその類型論的意義」「日本語レキシコンの音韻特性」研究発表会, 2014 年 6 月 22 日:国立国語研究所（東京都立川市).

〔図書〕（計２件）

[1] Igarashi, Yosuke (forthcoming) Intonation. To appear in: Y. Hasegawa (ed.) Cambridge Handbook of Japanese Linguistics. Cambridge University Press.

[2] Igarashi, Yosuke (forthcoming) Intonation in Japanese dialects. To appear in: N. Kibe (ed.) Mouton Handbook of Japanese dialects. Mouton de Gruyter.

６．研究組織

(1)研究代表者

五十嵐　陽介（IGARASHI, Yosuke）
一橋大学・大学院社会学研究科・准教授
研究者番号：00549008